



第42回日本静脈学会総会

The 42nd Annual Meeting for
Japanese Society of Phlebology



2022

7.7_木・8_金

ステーションコンファレンス東京
東京都千代田区丸の内 1-7-12 サビアタワー4~6F

会長

広川雅之(お茶の水血管外科クリニック)

副会長

菅野範英(公益財団法人東京都保健医療公社大久保病院)

工藤敏文(東京医科歯科大学末梢血管外科)

プログラム委員長

井上芳徳(てとあしの血管クリニック東京)

演題応募期間:2021年12月1日(水)~2022年1月31日(月)

つどい、 かたらう、 静脈学



シンポジウム5

静脈疾患の血管内治療に対する血管診療技師(CVT)の取り組み

当院における静脈疾患の血管内治療に対する血管診療技師(CVT)の取り組み Attempts of Clinical Vascular Technologists (CVT) for endovascular treatment of venous diseases at our hospital

○黒瀬満梨奈¹ 川渕幸二¹ 谷本尚愛² 今井崇裕³

Marina Kurose¹, Koji Kawabuchi¹, Naochika Tanimoto², Takahiro Imai³

1. 西の京病院 看護部

2. 西の京病院 臨床工学科

3. 西の京病院 血管外科

1. Nursing Department, Nishinokyo Hospital

2. Department of Clinical Engineering, Nishinokyo Hospital

3. Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

抄録

血管診療技師認定機構は2006年に発足し、血管診療技師（以下 CVT）は1,425名となった。その大半は臨床検査技師であり、看護師は50名（3.5%）である。近年、血管疾患に対する診療はチーム医療が不可欠となり、CVT看護師が専門的な知識をどのように業務で活かすことができるか、当院の現状と課題について検討した。

当院には CVT を取得した臨床検査技師と看護師が各1名在籍している。当科は静脈およびリンパ疾患を中心に診療しており、看護師のおもな業務は医師の診察補助と患者さんの指導である。看護師は医師とほぼ独立して患者さんへの指導を行っている。下肢静脈瘤周術期におけるオリエンテーションでは、専用のパンフレットと動画を作成して、それを供覧することで患者さんの手術に対する不安を取り除く工夫をしている。弾性ストッキングや包帯を使用した圧迫療法の指導では、ガイド付き包帯を利用してピコプレスで実際に圧迫圧測定することで、適切な圧迫圧を実感してもらっている。爪白癬症を疑われた場合は、足趾爪より検体を採取して白癬症の有無を確認している。常に学んだ専門的な知識を活かすべく、医師の目が行き届かないところへ目を向けている。

また県内の医療機関と合同で院外活動も積極的に行っている。市民への血管疾患の啓発活動として市民公開講座をコメディカルが中心となり企画している。地域への取り組みとして、奈良県の地場産業である靴下作りの復興を目指した「NARA ソックス・プロジェクト」の活動も行っている。靴下会社に臨床現場の患者さんの声を伝え、より履きやすくニーズに合った着圧ストッキングを共同で製作している。

看護はコミュニケーションが大切で、すべては患者さんとのやり取りから始まる。コロナ渦で遠隔診療が取り入れられ、コミュニケーションの取り方も変化してきている。患者さんの声を上手に広げ、専門的な知識を伝えていくことが今後の課題だと考えている。

一般演題（口演） 7 「下肢静脈瘤」

下肢静脈瘤患者における爪白癬の有病率

Prevalence of trichophytosis unguium in patients with varicose veins

○川渕幸二¹ 黒瀬満梨奈¹ 谷本尚愛² 今井崇裕³

Koji Kawabuchi¹, Marina Kurose¹, Naochika Tanimoto², Takahiro Imai³

1. 西の京病院 看護部

2. 西の京病院 臨床工学科

3. 西の京病院 血管外科

1. Nursing Department, Nishinokyo Hospital

2. Department of Clinical Engineering, Nishinokyo Hospital

3. Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

抄録

【はじめに】下肢静脈瘤の他覚所見として、下肢の腫脹、静脈周囲の発赤、脂肪皮膚硬化症、静脈性潰瘍、感染などが認められる。また高温多湿の風土から日本人の5人に1人は白癬症に罹患しており、糖尿病など基礎疾患をもった患者においては有病率が40~74.1%と高い。今回、当院において下肢静脈瘤患者を対象に白癬症の有病率を前向きに調査した。

【対象】2021年7~12月に下肢静脈瘤で当院を受診した患者100人（女性75人、男性25人、平均年齢69.3歳±11歳）を対象とした。CEAP分類の内訳は、C1:1人、C2:61人、C3:8人、C4a:7人、C4b:13人、C5:0人、C6:4人であった。

【方法】手術前に患者の同意を得て、担当スタッフが目視上で感染が疑われる足爪より検体を採取し、KOH直接鏡検法にて爪白癬の有無を調査した。結果が陽性であった場合、ホスラブコナゾールを12週間投与して、適宜採血検査を行い肝機能障害が出現した場合は調査を中断した。

【検討内容】CEAP分類におけるC:臨床徴候の進行度と爪白癬症有病率の関連性を検討した。

【結果】下肢静脈瘤患者の爪白癬症有病率は全体19%、女性20%（75人中15名）、男性16%（15人中4人）であった。臨床進行度別にはC1:100%（1人中1名）、C2:11.5%（61人中7名）、C3:37.5%（8人中3名）、C4a:14.3%（7人中1名）、C4b:37.5%（16人中6名）、C6:25%（4人中1名）であった。爪白癬のタイプはDLSO（遠位側縁甲下爪真菌症）が89.5%（19人中17人）であった。

【考察】日本人の白癬症有病率24.7%、爪白癬有病率10%、男女比1:2、年齢とともに有病率が上がり、爪白癬症のタイプは9割がDLSO（遠位側縁甲下爪真菌症）と報告されている。それらの報告と比較して、下肢静脈瘤患者の爪白癬症の有病率、C:臨床徴候の進行度との関連性とも特異的な結果を得ることはできなかった。

【結語】下肢静脈瘤患者の爪白癬の有病率は高くなく、またC:臨床徴候の進行度との関連性も否定的である。

平井圧迫療法賞選考演題 2 (口演)

新たな弾性ストッキング -パイル生地弾性ストッキングの有効性- New Elastic Stockings -Effectiveness of Pile Elastic Stockings-

谷本尚愛¹ 黒瀬満梨奈² 川渕幸二² 今井崇裕³

1. 西の京病院 臨床工学科
2. 西の京病院 看護部
3. 西の京病院 血管外科

Naochika Tanimoto¹, Marina Kurose², Koji Kawabuchi², Takahiro Imai³

1. Department of Clinical Engineering, Nishinokyo Hospital
2. Nursing Department, Nishinokyo Hospital
3. Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital

【目的】2016年から私たちは奈良県の地場産業である靴下産業の復興と圧迫療法の普及を目的に、NARA ソックス・プロジェクトの活動を続けている。静脈疾患やリンパ管疾患に対する圧迫療法には弾性ストッキングが用いられ、下肢還流を改善する有効な治療法である。しかし、着用に伴う皮膚トラブル（水泡、皮膚炎、潰瘍など）や着用時の不快感といった患者からの訴えもあり、アドヒアランスの低下に繋がる場合もある。パイル生地は主にタオルに使用され、表面に丸いループ状の糸を織り出していることからパイルと呼ばれ、クッション性や弾力性が高く肌触りが良い生地である。生地の表面積が広いため吸水性が高く、織地およびループ糸の素材を変えることで保温性にも優れる。今回、弾性ストッキング着用時のアドヒアランス向上を目的にパイル生地の弾性ストッキングを製作したので、従来の製品と比較検討した。本研究は当院の倫理委員会に研究目的・要旨を申請し、承認を得た。

【研究内容】2022年1～3月、当院および奈良県内の静脈不全疾患の既往のない健常医療従事者50名を対象とした。検討項目は圧迫圧、下肢静脈還流量、保温性、速乾性とした。圧迫圧はPicoPress (Microlab Elettronica, Ponte San Nicolo, Italy) を用い、仰臥位と立位で足関節部と腓腹部外側で測定した。下肢静脈還流の評価には超音波パルスドプラ法によりストッキング着用前、着用20分後、着用40分後の膝窩静脈の血管径 (VD) と最高血流速度 (PV) を測定した。またパイル地の速乾性および保温性の評価方法はネットワーク型温湿度計 (TRH-7X, 神栄テクノロジー株式会社, 日本) と重量計を用いて、試験片に水滴を含ませ質量の変化を測定した。検査は全てをCVT (血管診療技師) が測定を行った。検討項目の試験結果に若干の文献的考察を加えた研究成果を発表する。